

10月学習会のご案内

平成24年10月3日

国語を語る会のホームページができました



「国語を語る会」が16年目にして初めてホームページになりました！ —といってもたいした内容のページができていたわけではありません。小出先生という機器に強い方のお力をいただきながら、整えたものです。今後、少しずつ充実させていきたいものです。まだ検索しても出てこない(?)でしょうから、「岡大附属小」→「国語部」からバナーをクリックしてください。やがては「語る会」で検索がヒットしてくるほど賑わうと嬉しいのですが、みなさん、ぜひ試しにお立ち寄りください！



また、「おもしろ見つけ」の本の出版もついに決まりました！次回の語る会のすぐ後から購入ができそうです。みなさんで広めていきましょう!! 語る会の会員を通して購入を希望すればいくらか安価になりそうです。詳しい情報は次回の語る会、またはホームページでご確認ください！

さて、秋の研究会はチェックされましたか？申し込みをよろしくお願いたします！

岡山県国語教育中国大会 10月26日（金）岡山市立鹿田小学校

「おもしろ見つけ」の学習を全学年で公開します！岡山発の読む方策の1つの形が、中国大会という場を通して発信されます。2次案内の黄色い紙は各学校にすでに配布されています。お手元に資料がなくても、「岡山県国語」とネットで検索していただきましたら詳しいことがわかりますよ。みなさん、ぜひともご参会ください！

岡山大学教育学部附属小学校研究発表会 11月3日（土）岡大附属小学校

11月3日・文化の日に公開します！1日開催で午前中に3時間の授業公開、午後から協議会とお茶の水女子大学の内田伸子先生の講演が行われます。もちろん全教科の授業が行われます。国語科は低・中・高学年の授業がさまざまな読むことの方策に則って物語を読む授業を展開します。1年生は「たぬきの糸車」、4年生は「3つのお願い」、6年生は宮沢賢治の世界を学習材にします。鹿田小学校とのネタかぶりは一切ありません。詳細はネットで「岡大附属小」と検索してご確認ください！

9月からの語る会から、説明的文章の読みへとシフト。みなさんのご意見をお待ちしています。

日時 平成24年10月21日（日）14:00～16:30

※日曜日開催になります。ご注意ください。

場所 岡山大学教育学部附属小学校 2階 会議室

TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455

連絡先 小野 桂（おの けい） keikeioh@fuzoku.okayama-u.ac.jp

内容 説明的な文章の直観の仕方について 「天気を予想する」（5年 光村図書）

9月の学習会の報告

(文責 近藤昌子)

9月の語る会は、「国語授業のユニバーサルデザイン」に書かれている筑波大学附属小学校桂聖先生の提案する説明文の授業をもとに、気付いたこと、大切にしていきたいことなどについて話し合われました。

田中先生より

○「読む力が育つ『おもしろ見つけ』～読者反応理論を取り入れた物語の授業」の発刊間近。

10月22日予定。

○校長講話の柱について

中学生に向けての話の柱…「視点の移動」のコントロールが課題。

→抽象レベルのコントロール

→立場を越えた多面的多角的な見方ができること

①「あなたは中学生の男子生徒を表すのに形容することば3つで表すとしたらどんなことばを当てはめますか」と聞かれることで、「あなたは」を変えるといろいろな見方（親として、先生から見て、女子から見て…）を変えることができることに気付く。他の人の見方を考えた上で自分のことを考えるようになってほしい。

②文学作品を重ねて…「喪のある景色」（山之内獏さん）の一節「こんな景色の中に神のバトンが落ちている、血に染まった地球が落ちている」いろいろな考えられることから見方を変えることによって同じものが違うものに見える、つまり選択しながら生きていることを意識してもらえとおもしろい。

○おもしろ見つけと丸ごと読みはセットと考えている「直観」について

世界思想社の論文のPR誌 テーマ「感性」の中の論文

「感性は感動しない」（芸術：絵の鑑賞）

前半：感性的全体的把握は似ている。後半：感性は育てられるか？

筆者：感性を磨く必要はない→自分の色は付いていてよい

→つまり、次に作品を見る場合に違って見ることは否定していない。

小・中は感じ方を育てる刺激は必要であり、読み手によって感じ方が違ってくることを否定しないことと通じる。

小川先生より

○10月26日の中国大会で、おもしろ見つけの本のちらしを配る。1000冊目標にがんばりましょう。(^^)勉強会を通しておもしろ見つけのレベルが上がっていると感じる。

○「国語授業のユニバーサルデザイン」の本について

・これからの国語授業：学力差が見えない授業

・文科省ではインクルーシブ教育を進めている（特別支援を要する子を通常学級に入れ、共同学習などを工夫して学力・生活力をつけるもの）→ただし施設、人的支援、研修等で予算的に厳しい

・授業のあり方として「おもしろ見つけ」は学力差が出ない。支援が必要な子どもでも参加できる。

○説明的文章についての桂さんの指導

・3つの指導内容

①説明内容②説明方法③論理

・3つの読みの力

①確認読み②解釈読み③評価読み

・説明文の五つの読み方

①要点②問いと答え③表現技法④三段構成⑤要旨や意図

- ・「筆者の意図は説明の裏に隠れている。文章の要旨を読み取りながら筆者の意図も読む読者を育てる」という考え

この考えを一つの拠り所としながら説明的文章のあり方について考えていきたい。

次回からは説明的文章を中心に置きながら勉強会を進めていく予定。

(協議)

<1グループより>

- ・論理、評価読みも必要だが、授業に下ろす難しさもある。子どもから引き出す授業のアイデアが必要。
- ・評価とは何を物差しにするか。事例は筆者の考えの道筋でもある。筆者の道筋には納得しても、自分の経験からはこんなこともあるからこう考えるなどと自分の経験をもとに評価することも大事。
- ・要点や中心文などの物差しは大事だが、それだけで授業をしていくとおもしろさがなく、子どもが飽きる。「本当に円柱形か」といった〇〇見つけのような形で進めていくと子どもが説明文をととも楽しんでた。
- ・筑波で「千年の釘」を見たが、切り刻んで分析しているように感じた。感動を大切に読んでこそ、子どもの腑に落ちるのではないか。
- ・高校の説明文には、小学校までの形式では通用しない。段落のつながりやポイントがつかめていないと読めない。型から教えるのではなく、つながりの結果が構成図のようになっていることがつかめるといことが大事。
- ・日常では読むと同時に自分なりの評価をしながら読んでいる。自分の考えを文章に対してもつチャンスが授業のシステムとしてあればよいのではないか。

<2グループより>

- ・要旨、要点をまとめるのは必要なのか？
丸ごと読みの「直観」は主題を読むことともとれる。丸ごと読みやおもしろ見つけは主題を読む上で親切なやり方。それ以前は主題を読む授業はあっても、主題を読む道筋がなかった。説明文では主題は「要旨」。要旨をとらえる力は必要だが、それをとらえる方法がある。今日の資料の技能的なやり方は子どもにとっておもしろさがなく、評価する力も付きにくい。説明文のおもしろさに反応することをベースにして、分析的な読み→仕掛けや構成に目が向くような授業をやっていく。

<3グループ>

- ・論理をはじめに教える形。教材研究としては役立つ。
- ・内容と論理はセットで指導することが大事。核になるところが読めて全員が土台に乗れる。内容の分かりやすかった理由を探ることで論理に納得できる。何に反応したかを大切にする。教師が反応を引き出して意味付けるのが大事。
- ・論理の問いや答えの関係は1年生から。技能として身に付けるのも大事。
- ・順序を教えるには並び替え。表現のよさは断定をなくす、推量をなくすなどの例を示して表現の有効性をつかむことができる。教師が仕組むことが必要。
- ・評価読みをしていくときは、内容が分かっていることが前提。納得できることできないことを原動力として評価読みを進める。逆の論をもって来て疑わせることも大切。

田中先生より

今日はこの資料を批判的に読みましょうという課題。

一つ一つは原則的に悪くない。

「3つの指導内容」は50年前から言われていること。人として成長していく6年間の期間にどうという読みの力をつけていけばよいのかという発想ではなくて、学習指導要領に書かれている内容を教えるにはこういう風に教えるといいですよねという発想に基づいて書かれている。要素の指導だけになっている。

「要旨、要約は必要か」について、どちらも必要と考える。が、要約を求められる状況が子どもにあるという前提で必要と考える。学習者自身が要約してみようという読み方を身に付けられるかが大事。要約にも意味が出てくる。

問いと答えの関係をクリアにしていけば要約になる。何の情報を発信しているかが問いの文をはっきりさせることであり、この人はこう言っているというところが答えであり、納得できるように答えに至る過程が文章構成を確かめることにつながる。読み手の側の認識の立場に立って述べる必要がある。

ユニバーサルデザインとは、取り立てて言わなくても、学習者が自分の力に応じて求めていく姿勢になっていればどの子にとっても学習の成果となる。

子どもがどこにどうやって気付いたのか、どんな見方をしたのかを取り上げて授業で重点化していくことが大切。

「評価読み」という言い方が日本人になじみにくい。「自己を読む」という言い方をしている先生もいる。自分にとってこういうことがよかったという読み方こそ自分にプラスになる読み方。人の尺度ではなく、自分はこの文章をどう読むといえるようにしたい。ただし学習の経験で比べたり観点を導入したりしていくのは必要。

基本は丸ごと読みやおもしろ見つけの考え方で授業を提案していけるのではないか。物語では形象、イメージの世界、感性的な像を描くことがゴール。説明文ではゴールが論理。論理の中核は問いと答えとその過程となる。